



あらすじ

20xx 年。大学教授が人間を自由にコントロールできる腕輪を使い、学生たちを次々と言いなりの奴隷にしていく。

最初は陸上部部長の山田、同じ研究室でレスリング部の亮、そして亮の親友でレスリング部の琢磨、、、。

奉仕、69、アナル開発、アナニー、羞恥露出、亀頭責め、潮吹き、あへ顔晒し、お仕置き、撮影、玉責め、、、3人は羞恥と屈辱の中でおとされていった、、、。

主な登場人物

田代（大学教授）：人間をコントロールできる腕輪を開発。真正のサディスト。熊のようながっちりとした体型。

斉藤琢磨（主人公）：3年。レスリング部部員。友達思いの情に熱い男。175 cm 筋肉質であっさりとした顔立ち。亮を脅しに使われ自ら腕輪を装着し、奴隷堕ちした。シロという名前を与えられる。

木村亮（琢磨の親友）：田代の「身体心理学研究室」の学生で、琢磨と同じレスリング部部員。無邪気な性格、細かいことは気にせず明るい。180 cm 筋肉質で男らしい顔立ち。クロという名前を与えられる。

山田俊樹（亮と同じ研究室の先輩）：陸上部キャプテン。あまり口数は多くないが、人に優しく自分に厳しい。自分の考えをもっていて、人から自然と好かれるタイプ。田代の最初の実験体にされた。田代にボチという名前を与えられている。

昼食

琢磨の亀頭責め、潮吹き動画が琢磨のスマホに送られてくる。動画の中の自分は涙を流しながらも快楽に溺れ乱れている。これが自分だとなると本当に嫌になる。今なんとか教授の呪縛から抜け出さなければ、逃れられなくなると肌で感じているが、どうすることもできない、、、この腕輪さえなければ、、、。

昼食の時間琢磨は教授に呼び出された。授業が終わると、琢磨の体は自動的に教授のもとへ向かう。操り人形であるということを自覚させられる。研究室に着くと全裸にされ、テーブルの上に寝かせられる琢磨。

「どんなときでも、私の都合で呼び出せる玩具は最高だ、、、。」

「はい、、、ご主人様、、、シロは言いなりの玩具です、、。」

（こんな変態な野郎の言いなりになるなんて、、、くそ、、、ちくしょう、、、。）

羞恥のセリフをはきながら、心では反抗心をいдаく。その葛藤に苦しむが、亮にまたひどいことをされるのは避けなければならない。

「お前は本当にイケメンだなあ。」

ぺろぺろぺろ、、、ちゅぱちゅぱあちゅうぱあちゅぱあ、、、。

教授が琢磨の顔を舐め、しまいには口の中に舌を入れてくる。琢磨もあきらめて、教授と舌を絡めていく。

「ははは、、、そんなに吸い付くなよ、、、シロも私とのキスが大好きなんだな、、、。今日呼んだのは、ちょうどいい皿が無くてな、、、。お前に皿になってもらおうと思ってな。こぼれないよう、足と腕で壁をつくっておけ。」

そう言うと、昼食に買ったであろう、麻婆豆腐とご飯を琢磨のパイパンにさ

れた股間部分と腹のあたりにのせていく。

（気持ち悪い、、、こんなことして、、何が楽しいんだ、、、。）

そんなことを考えていると、教授は琢磨の尻のバイブのスイッチをいれ、琢磨の竿は麻婆豆腐とご飯の中で、瞬く間にギンギンになっていく。

「ケツマンコで感じるようになって嬉しいよ、、お前は奴隷の才能がある。まあ恥ずかしがることは無い、ポチもクロも、俺にいじめられるのが大好きなんだから。」

（くう、、、こんなことされて、、尻で感じて、、勃起をさらすなんて、、、。）

顔を真っ赤にして恥ずかしがっている琢磨をよそに教授はスプーンで料理をすくい食べすすめる。料理が少なくなってくると、琢磨の腕を開放し、乳首責めをするよう命令する。

「ぐう、、うう、、あ、、あ、、あ、、あ、、うう、、あ、あ、あ、、うう、、あ、あ、、あ、、。」

「シロは乳首も大好きなんだな、、、気持ちよさそうじゃないか、、、こんなにびくつかせて、、、。」

手で琢磨のペニスをしごく教授。

「どうした、、もっと気持ちよさをアピールしなくていいのか、、、、またクロをどうするかわからんぞ、、、。」

「ぐう、、ふうん、、あ、あ、、ご主人様、、気持ちいいです、、白はご主人様に、、いじめられて、、感じています、、。」

（くそ、、こいつ、、亮をたてにしゃがって、、、。）

「それじゃあメインディッシュをいただこうかな。」